

感染症定期報告の報告状況(2009/3/1~2009/8/31)

資料No. 4-2

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
1	2009/3/6	80944	東菱薬品工業	幼牛血液抽出物	幼牛血液抽出物	幼牛血液抽出物	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	米国アラバマのBSE確定ウシでウシプリオン蛋白遺伝子(Prnp)におけるE211Kと呼ばれる新規の遺伝子変異を同定した。この変異は遺伝性CJDのヒトにおいて見られるE200K病因性変異と同一であり、ウシPrnp遺伝子内で潜在的病原性変異を有するBSE確定ウシの最初の報告である。最近の疫学的試験によるとK211アレルは6062頭のウシで全く検出されず、E211K変異は極めて頻度が低い(2000例中1例未満)。
2	2009/3/6	80945	東菱薬品工業	ヘモコアグララーゼ	ヘモコアグララーゼ	毒蛇	ブラジル	有効成分	無	無	無			
3	2009/3/9	80946	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	カザミノアシド	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
4	2009/3/9	80947	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥痘そうワクチン 沈降精製百日せきワクチン コレラワクチン ジフテリアキソイド ワイル病秋やみ混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド、中国	製造工程	無	無	無			
5	2009/3/9	80948	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
6	2009/3/9	80949	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ心臓透析外液	ウシ心臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
7	2009/3/9	80950	武田薬品工業	インフルエンザHAワクチン	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
8	2009/3/9	80951	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ニワトリ胚細胞	ニワトリ胚	日本	製造工程	無	無	無			
9	2009/3/9	80952	武田薬品工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ペブシン	ブタ腎	アメリカ合衆国	製造工程	無	無	無			
10	2009/3/9	80953	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	トリブシン	ブタ隣臓	アメリカ合衆国、カナダ	製造工程	無	無	無			
11	2009/3/9	80954	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	バグトカジン	ウシの乳		製造工程	無	無	無			
12	2009/3/9	80955	武田薬品工業	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウシ血清	ウシ血液	アメリカ合衆国、ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
13	2009/3/9	80956	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	スギムミルク	ウシの乳	アメリカ合衆国、日本	製造工程	無	無	無			
14	2009/3/9	80957	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
15	2009/3/9	80958	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素	ウマ血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
16	2009/3/9	80959	武田薬品工業	痘そうワクチン 乾燥痘そうワクチン	ウシ皮膚	ウシ皮膚	日本	製造工程	無	無	無			
17	2009/3/9	80960	武田薬品工業	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギ血液	日本	製造工程	無	無	無			
18	2009/3/9	80961	日立化成工業	乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血清	日本	製造工程	無	無	無			
19	2009/3/9	80962	日立化成工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン ジフテリアキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥破傷風ウマ抗毒素	ウシ肉水	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
20	2009/3/9	80963	中外製薬	ペバシズマブ(遺伝子組換え)	ペブジン	ブタ胃組織	米国	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	FDA/CDER Meeting of the Antiviral Drugs Advisory Committee 2008年12月2日	FDAの抗ウイルス諮問委員会はSolvay社のCreon(Pancrelipase徐放剤、NDA20-725)およびその他の膵酵素製品(PEPs)がブタ由来であることから、ブタウイルスによるヒトへの感染リスクについて検討した。今までにヒトにおける感染が発生したとのエビデンスはないが、全てのブタ由来PEPは動物のウイルスを含有し、ヒトにおける感染のリスクをもたらす可能性があるというラベルに記載すべきであると警告した。
												ウイルス感染	OIE Press Release 23Dec2008	ブタにおけるEbola-Restonウイルスの初めての検出: フィリピンにおいてブタからEbola-Restonウイルスが検出されたことを受けて、フィリピン政府がFAO、OIEおよびWHOに専門家の派遣を要請した。2007年および2008年にNueva EcijaおよびBulacanの農場においてブタの死亡が増加したことからフィリピン政府による調査が開始され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(RRRS)およびEbola-Restonウイルス感染が確認された。フィリピンのサルにおいては感染が確認されている。
21	2009/3/9	80964	中外製薬	ペバシズマブ(遺伝子組換え)	チャイニーズハムスター卵巣細胞	チャイニーズハムスター卵巣	不明	製造工程	無	無	無			
22	2009/3/10	80965	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシの肝臓	ウシの肝臓	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
23	2009/3/10	80966	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド	ビーフハートインフュージョン	ウシの心臓	インド、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
24	2009/3/10	80967	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 沈降破傷風トキソイド	ウシ肉エキス	ウシの肉、骨、脂肪	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
25	2009/3/10	80968	阪大微生物病研究会	破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド コレラワクチン 沈降破傷風トキソイド	スキムミルク	ウシの乳	米国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
26	2009/3/10	80969	阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 破傷風トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド コレラワクチン	ポリペプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
27	2009/3/10	80970	阪大微生物病研究会	インフルエンザワクチン インフルエンザHAワクチン 沈降新型インフルエンザワクチン(H5N1)	尿膜腔液	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
28	2009/3/10	80971	阪大微生物病研究会	麻疹チラスワクチン	卵黄囊	発育鶏卵	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
29	2009/3/10	80972	日本ビーシー製造	精製ツベルクリン	全卵	ニワトリの卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	J Virol Methods Vol.149, No.1,180-183 2008	自然水レザパー中の超低濃度インフルエンザウイルスを検出する簡便法を開発した。ニワトリの全血から分離した赤血球細胞を用い、細胞表面のシアリルリセプターに対するウイルス結合と凝集による濃縮を行い、鶏卵胚で培養後ウイルスを検出した。検出感度と確率をPCR法と比較した。
												鳥インフルエンザ	Emerging Infectious Diseases Vol.14, No.8, 1303-1305, 2008	2006年2月から8月にHN51型インフルエンザウイルスのアウトブレイクが起こったカンボジアの3つの村で土壌表面のスワブ、貯水池の水中植物、死亡した家禽等の環境調査を実施した。14世帯領域から採集した77サンプル中27サンプル(35%)がrRT-PCRによりH5N1陽性であることが確認され、家禽飼育場所の定期的な消毒の必要性が示唆された。
												鳥インフルエンザ	Avian Diseases, Vol.52, No.1, p40-44, 2008	ニワトリに実験的にH5N1インフルエンザを感染させ、気管と種々の組織におけるウイルスの局在について解析した。と畜前の気管スワブの抗原検出試験は発症または死亡した感染ニワトリを同定するには役立ったが、発症前の検出感度は低かった。
30	2009/3/10	80973	日本ビーシー製造	精製ツベルクリン	乳糖	ウシの乳	オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルグ	添加物	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	80944に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	J Infect Dis 2008; 198: 81-89	未接種のシリアンハムスター(Shas)を、Sc237プリオンに経口的に感染させたShasと共に飼育するかまたはその排泄物に曝露させた。曝露した動物でのプリオン感染率は80-100%で、潜伏期間は140日以下であり、糞、おそらく糞食を介した伝播が示唆された。Shaプリオンを過剰発現するトランスジェニックマウスに脳内接種したところ、潜伏期間の無症候期を通して低レベルの感染性プリオンの排泄が続いていた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Virology Vol.379 No.2 284-293, 2008	プロテアーゼ抵抗性プリオンタンパク(P ^{Sc} PrP ^{res})の細胞内取り込みについて、ユニークな抗体エピトープを標識結合することにより、取り込まれたPrP ^{res} と細胞内在性のPrP ^{res} やプロテアーゼ感受性PrP(PrP ^{sen})とを区別することが可能になった。PrP ^{res} の取り込みはスクレーパーの種類や細胞種によらず速やかであり、一部の細胞だけに見られ、PrP ^{res} の調整法と凝集サイズに依存することが明らかになった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infectious Diseases, Vol.14, No.12,1898- 1901,2008	典型的BSEプリオンと非典型的プリオン(H型・L型)の脳への伝播をMet129ヒトPrPトランスジェニックマウスを用いて比較した。典型的BSEプリオンとは異なり、L型非典型的プリオンは伝播のバリアーを示さず蓄積された。H型では伝播・感染しなかった。L型プリオンに関連する人獣共通感染症のリスクはMet129PrP対立遺伝子対をもつヒトにおいては、典型的なBSEよりもリスクが高い可能性が示唆された。
31	2009/3/12	80974	シオノケミカル	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	イタリア	有効成分	無	無	無			
32	2009/3/16	80975	化学及血清療法研究所	ワイル病治療血清	血清	ウサギ血液	—	製造工程	無	無	無			
33	2009/3/16	80976	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	オーストラリア、 ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
34	2009/3/16	80977	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 破傷風トキソイド	スギムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
35	2009/3/16	80978	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ワイル病治療血清 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ポリペプチン	ウシ乳	中国、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
36	2009/3/16	80979	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 乾燥ガスえそウマ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肝臓	ウシ肝臓	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
37	2009/3/16	80980	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド コレラワクチン 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ガスえそウマ抗毒素 ガスえそウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	肉	ウシ肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
38	2009/3/16	80981	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョン アガー	ウシ乳・心臓	—	製造工程	無	無	無			
39	2009/3/16	80982	化学及血清療法研究所	コレラワクチン	ハートイン フュージョン ブイオン	ウシ乳・心臓	—	製造工程	無	無	無			
40	2009/3/16	80983	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
41	2009/3/16	80984	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむしウマ抗毒素	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
42	2009/3/16	80985	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリアトキソイド ワイル病治療血清 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	血清	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
43	2009/3/16	80986	化学及血清療法研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	発育鶏卵	ニワトリ発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
44	2009/3/16	80987	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素 乾燥まむしウマ抗毒素 乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ペブシン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
45	2009/3/16	80988	化学及血清療法研究所	ワイル病治療血清	肝臓	モルモット肝臓	—	製造工程	無	無	無			
46	2009/3/16	80989	化学及血清療法研究所	ワイル病治療血清	血液	モルモット血液	—	製造工程	無	無	無			
47	2009/3/16	80990	化学及血清療法研究所	沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 破傷風トキソイド	ハートエキス	クジラ心臓	海洋生物由来の原材料	製造工程	無	無	無			
48	2009/3/16	80991	化学及血清療法研究所	乾燥はぶウマ抗毒素	はぶ毒	ハブ毒素	日本	原材料	無	無	無			
49	2009/3/16	80992	化学及血清療法研究所	乾燥まむしウマ抗毒素	まむし毒	マムシ毒素	日本	原材料	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
50	2009/3/16	80993	化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	ニュージーランド	添加物製造工程	無	無	無			
51	2009/3/16	80994	化学及血清療法研究所	乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン	脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
52	2009/3/26	80995	化学及血清療法研究所	乾燥抗破傷風人免疫グロブリン	抗破傷風人免疫グロブリン	ヒト血液	米国	有効成分	有	無	無	リケッチア症	ProMED-mail20080728.2306	オランダ・フラバント州の公衆衛生局が行った調査でQ熱の症例報告数が急激に増加し、2008年7月21日付けで491症例が報告されている。感染症管理センター長によると、実際の感染者数は報告された症例数の10倍であると思われる。2007年まではQ熱はオランダではほとんど存在しなかった。
												ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080828.2697	インド東部のウツタルプラデシ州で小児を死亡させている原因不明のウイルスは、インド保健省の専門家らにより急性脳炎症候群と診断された。同州の13の地区では、数週間におよそ800人の患者が発生し150人が死亡したと報告され、その数は増加すると見られている。血液検査で日本脳炎陽性となった患者は5%以下であった。日本脳炎とエンテロウイルスとの混合感染の可能性について調査中である。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	インフルエンザ様疾患の小児の呼吸分泌物中から、汎ウイルスマイクロアレイ法を用いて、初めてヒトカルディオウイルスを同定した。系統遺伝学的分析から、このウイルスはTheilerのネズミ脳脊髄炎ウイルス亜型に属し、Saffoldウイルスと最も近縁であった。また、胃腸疾患患者群498名から得た751例の糞便検体中6検体からカルディオウイルスが検出された。
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	2008年10月初旬に南アフリカでアレナウイルスによる感染のアウトブレイクが同定された。9月12日から10月24日までに計5例が報告され、5例中4例が死亡し、1例は入院中である。死亡した4例では発病から死亡まで9～12日間であった。塩基配列分析より、ユニークな旧世界アレナウイルスが原因であることが明らかとなった。現在のところ新たな疑い症例はない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	GDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	米国ミネソタ州の68歳男性が、2007年10月12～21日に手術後の輸血を受け、敗血症および多臓器不全をきたした後、10月31日に発熱を伴う急性血小板減少症を発現し、11月3～5日の血液検体からPCR及び抗体検査でアナプラズマ症感染が確認された。血液ドナーの1人にA. phagocytophilum陽性がPCR及びIFA検査で確認され、血液ドナーに感染源が確認された初の事例となった。
53	2009/3/16	80996	フェリン グ・ ファーマ	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	—	米国、カナダ	有効成分	無	無	無			
54	2009/3/16	80997	フェリン グ・ ファーマ	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ蛋白加水分解物	ウシ脾臓、ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
55	2009/3/16	80998	フェリン グ・ ファーマ	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	インスリン	ウシ膵臓	米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
56	2009/3/16	80999	フェリン グ・ ファーマ	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ血清アルブミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
57	2009/3/16	81000	フェリン グ・ ファーマ	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシ胎児血清	ウシ血液	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
58	2009/3/16	81001	フェリン グ・ ファーマ	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシホプロテイン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
59	2009/3/16	81002	フェリン グ・ ファーマ	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	ウシアポトランスフェリン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
60	2009/3/16	81003	フェリン グ・ ファーマ	インフリキシマブ(遺伝子組換え)	マウス骨髄腫由来細胞	マウス骨髄腫	—	製造工程	無	無	無			
61	2009/3/17	81004	日本メジ フィジック ス	放射性医薬品基準テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)注射液	テクネチウム大凝集人血清アルブミン(99mTc)	生物学的製剤基準人血清アルブミン	日本	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
62	2009/3/18	81005	持田製薬	日本薬局方 注射用ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	百局 ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	ヒト(妊婦)尿	中国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	ヒツジを用いた感染実験において、BSEは36%、スクレイパーは43%と予想以上に高い輸血伝播率を示した。高い伝播率および臨床的に陽性のレシピエントにおける比較的短期間の一定した潜伏期間は、血中の感染性力価が高いことおよびTSEが輸血により効率的に伝播することを示唆する。血液製剤によるヒトでのvCJD伝播を研究するために、ヒツジが有用なモデルであることが示された。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995]と同じ
												感染	日本医真菌学会雑誌 2008; 49: 92 第52回 日本医真菌学会総会 2008年9月10-11日	健常者(63歳男性)の爪真菌症から Arthrographis kalrae を分離・同定した。土壌や堆肥との接触を介しての感染が疑われた。イトラコナゾールの内服とミコナゾールの外用で治療を開始したが、心臓頻拍出現のため、外用と削爪のみで経過をみたところ、約6ヶ月で略治した。日本での分離は本症例が初めてである。
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	南アフリカとザンビア出身者の最近の死亡例3例はアレナウイルス科のウイルスが原因あることが、NICDおよびCDCで行われた検査の結果明らかとなった。詳細な分析が継続されている。一方、南アフリカでは患者と密接に接触した看護師が感染し、入院中である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FEBS Letters 2008; 582: 3161-3166	実験的にプリオンを感染させ、有病期にあるハムスターの約80%の尿中に異常プリオン(PrP ^{Sc})が検出された。対照群での偽陽性は観察されなかった。また尿中PrP ^{Sc} 値は血中の約10分の1と推定された。尿中PrP ^{Sc} は感染性を維持しており、尿はプリオン伝播の原因となりうることを示唆された。
												ウイルス感染	IASR 2008; 29: 310-312	2007年11月22日、急性呼吸器症状を呈した東南アジアからの帰国者(38歳男性)が高病原性鳥インフルエンザの要観察例と判断され、インフルエンザH5N1の検査が依頼された。検査の結果、インフルエンザH5N1の感染は否定され、オルソレオウイルスが分離された。これまで本ウイルスに日本人が感染した報告はなく、国内への侵入も初めてと考えられた。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	JAMA 2008; 300: 2263-2270	中国安徽省でヒト顆粒球性アナプラズマ症(HGA)と症状が一致する患者は、2006年10月30日に発症し、11月5日に死亡した。確定診断はされなかったが、発症する12日前にダニに刺されていた。11月9-11日に、この患者の血液および呼吸器分泌物との直接接触によると疑われる症例9例が報告され、HGAと確定診断された。中国におけるHGA症例の初めての報告である。
												エボラ出血	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000212	2007年11月、出血熱の複数症例がウガンダ西部のブンディブギョ地方で報告され、新たに発見されたエボラウイルス種(ブンディブギョエボラウイルス)によるエボラ出血熱であることが確認された。
												ハンセン病、らい腫型	Eurek Alert(November 24, 2008) November 24, 2008	90100に同じ
												細菌感染	日本感染症学会西日本地方会学術集会 第78回 2008年12月5-6日 063	本邦で初のEnterococcus hirae感染例の臨床報告。化膿性胆管炎疑い患者の血液培養より分離。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	263Kスクレイピーの臨床症状を呈するハムスター22匹の尿にTSE感染性があることが示された。これらの動物の腎臓と膀胱のホモジネートは20000倍以上希釈してもTSE感染性があった。組織学的、免疫組織化学的分析では、腎臓における疾患関連PrPの散発的な沈着以外、炎症や病変は見られなかった。尿中のTSE感染性が、自然のTSEの水平感染に何らかの役割を果たす可能性がある。
63	2009/3/18	81006	持田製薬	下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン(hMG)	ヒト(閉経期婦人)尿	中国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												感染	日本医真菌学会雑誌 2008; 49: 92 第52回 日本医真菌学会総会 2008年9月10-11日	81005に同じ
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FEBS Letters 2008; 582: 3161-3166	81005に同じ
												ウイルス感染	IASR 2008; 29: 310-312	81005に同じ
												細菌感染	JAMA 2008; 300: 2263-2270	81005に同じ
												エボラ出血	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000212	81005に同じ
												ハンセン病、らい腫型	Eurek Alert(November 24, 2008) November 24, 2008	90100に同じ
												細菌感染	日本感染症学会西日本地方会学術集会 第78回 2008年12月5-6日 063	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	81005に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
64	2009/3/18	81007	持田製薬	日本薬局方ヘパリンナトリウム注射液	百局ヘパリンナトリウム	ブタ腸粘膜		有効成分	有	無	無	エボラ出血	Reuters (January 23, 2009)	90299に同じ
65	2009/3/18	81008	持田製薬	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	80944に同じ
66	2009/3/18	81009	持田製薬	トロンピン	トロンボプラスチン	ウシ肺	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000156	80944に同じ
67	2009/3/18	81010	持田製薬	インターフェロン ベータ	インターフェロン ベータ	ヒト線維芽細胞	日本	有効成分	無	無	無			
68	2009/3/19	81011	ファイザー	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの腸	中国	有効成分	無	無	無			
69	2009/3/19	81012	ベネシス	人血清アルブミン 乾燥濃縮人アンチトロンピンⅢ 人ハプトグロブリン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	ヘパリン	ブタ小腸粘膜	中国	製造工程	有	無	無	エボラ出血	OIE (December 23, 2009)	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認され、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示した。同ウイルスのブタからヒトへの感染を示す初の報告。
70	2009/3/19	81013	ベネシス	人血清アルブミン 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分 添加物	有	無	無	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1342-1347	高力価の培養デングウイルス セロタイプ2をアルブミンおよび免疫グロブリンの各種製造工程(低温エタノール分画、陽イオン交換クロマトグラフィー、低温殺菌、S/D処理およびウイルスろ過)前の検体に加え、各工程での同ウイルスのクリアランスをVero E6細胞培養におけるTCID50アッセイおよびRT-PCRで測定した。その結果、全ての工程が不活化・除去に有効であることが示された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Transfusion 2008; 48: 1348-1354	2005年9月20日～12月4日のプエルトリコの米 国赤十字におけるすべての供血16521検体中 のデングウイルス(DENV) RNAを TMA(transcription-mediated amplification)法で 測定したところ、12検体(0.07%)がTMA陽性で あった。4検体は、RT-PCR(DENVセロタイプ2 および3)陽性であった。RT-PCR陽性4検体中 3検体でウイルスを培養することができた。TMA 陽性12検体中1検体がIgM陽性であった。1:16 に希釈した場合は5検体のみTMA陽性であった
												チクングニヤウ イルス感染	Transfusion 2008; 48: 1333-1341	2005年から2007年に、チクングニヤウウイルス (CHIKV)はレユニオン島で大流行し、供血は 2006年1月に中断された。大流行中のウイルス 血症血供血の平均リスクは、10万供血あたり 132と推定された。2006年2月の最流行時にお けるリスクは、10万供血あたり1500と最高で あった。この期間中、757000人の住民のうち推 定312500人が感染した。2006年1月から5月の 平均推定リスク(0.7%)は、CHIKV NAT検査によ る血小板供血のリスク(0.4%)と同じオーダーで あった。
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 282-283	2005年の中国の4都市(Beijing、Urmuchi、 KunmingおよびGuangzhou)における供血検体 のHEV感染率を調べた。その結果、ルーチン検 査(抗HCV、抗HIV1/2、HBsAg、梅毒および ALT)陰性供血者の約1%は抗HEV IgMまたは HEV Ag陽性で、HEV感染の可能性があった。 また、ALTスクリーニングは中国のHEV感染血 排除に役立つ可能性があった。
												狂犬病	ProMED- mail2008082 6.2660	1990年から2007年の中国における狂犬病発生 傾向を調べた研究によると、最近8年間でヒト狂 犬病症例数が急激に増加したことが明らかと なった。ヒト狂犬病は1990年から1996年の間は 全国的な狂犬病ワクチン接種プログラムにより 抑制され、わずか159症例が報告されただけで あるが、2006年は3279症例と激増した。
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	81005に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28日	Blood誌のprepublished onlineに掲載されたヒツジにおける研究によると、輸血によるBSE伝播のリスクは驚くほど高い。エジンバラ大学で行われた9年間の研究は、BSEまたはスクレイピーに感染したヒツジからの輸血による疾病伝播率を比較した。その結果、BSEおよびスクレイピーとも輸血によりヒツジに効率よく伝播された。症状を呈する前のドナーから採取された血液によっても伝播することが示された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2008; 134: 757-768	マウスPrP ^{Sc} と混合させることによって折り畳み異常が起こったハムスターPrP ^C は、野生型ハムスターに対して感染性を起こす新規なプリオンを生成した。同様の結果は、反対方向でも得られた。PMCA増幅を繰り返すとin vitro産生プリオンの順応が起こる。このプロセスは、in vivoでの連続継代に観察される株の安定化を暗示させる。種の壁と株の生成がPrP折り畳み異常の伝播によって決定されることが示唆される。
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	非定型BSE(BASE)に感染した無症候のイタリアの乳牛の脳ホモジネートをカニクイザルに脳内接種した。BASE接種サルは生存期間が短く、古典的BSEまたはvCJD接種サルとは異なる臨床的展開、組織変化、PrPresパターンを示した。感染牛と同じ国の孤発性CJD患者でPrPが異常なウエスタンプロットを示す4例のうち3例のPrPresに同じ生化学的特徴を認めた。BASEの霊長類における高い病原性および見かけ上孤発性CJDである症例との関連の可能性が示唆された。
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	81005に同じ
71	2009/3/19	81014	ベネシス	乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	血液凝固第Ⅷ因子	人血液	日本	有効成分	有	無	無	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1342-1347	81013に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												デング熱	Transfusion 2008; 48: 1348-1354	81013に同じ
												チクングニヤウイルス感染	Transfusion 2008; 48: 1333-1341	81013に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 222-223	81013に同じ
												狂犬病	ProMED- mail2008082 6.2660	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2008; 134: 757-768	810113に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124- 14129	80995に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月 13日	81005に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
72	2009/3/19	81015	ベネシス	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	人免疫グロブリンG	人血液	①日本、②米国、日本	有効成分	有	無	無	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1342-1347	81013に同じ
												デング熱	Transfusion 2008; 48: 1348-1354	81013に同じ
												デング熱	Transfusion 2008; 48: 1333-1341	81013に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 282-283	81013に同じ
												狂犬病	ProMED-mail20080826.2660	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	81005に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28日	81013に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2008; 134: 757-768	810113に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	81013に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	WHO/EPR 2008年10月13日	810051に同じ
73	2009/3/19	81016	第一三共	精製下垂体性腺刺激ホルモン	精製下垂体性腺刺激ホルモン	人尿	中国	有効成分	有	無	無	鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2009年1月7日	中国衛生部は、中国において新たに鳥インフルエンザ感染例1例(2008年12月24日発症、2009年1月5日死亡)を報告した。
												鳥インフルエンザ	WHO/EPR 2009年1月22日	WHOに報告された鳥インフルエンザ(H5N1)ヒト確定症例数。2003~2009年の症例数及び死亡数。2008年はバングラデッシュで症例1例、カンボジアで症例1例、中国で症例4例(死亡4例)、エジプトで症例8例(死亡4例)、インドネシアで症例24例(死亡20例)、ベトナムで症例6例(死亡5例)。
												鳥インフルエンザ	ProMED-mail20090121-0263	中国における鳥インフルエンザ感染情報。2009年1月の感染例は、Hunan省の16歳男性(1月20日死亡)、Shandong省の27歳女性(1月17日死亡)、Beijing省の19歳女性(1月5日死亡)。
												細菌感染	ProMED-mail20081229-4095	901371に同じ
												レンサ球菌感染	ProMEDmail20081231-4135	香港のTai Po Hospitalの男性精神科病棟で患者15例がStreptococcus pyogenes(A群β溶血性連鎖球菌)検査に陽性であった。
												結核	ProMED-mail20090114-0151	中国における結核菌の薬剤耐性率は世界平均の約2倍であった。多くの患者が副作用やコンプライアンスの悪さによって治療を中断していることが問題である。
												マラリア	ProMED-mail20090114-0156	中国において、2008年5月から2009年1月10日の間にアンゴラから帰国した労働者において14例のマラリア症例が確認された。
												狂犬病	ProMED-mail20090114-0157	Shandong省Yantai市で狂犬病患者が増加しているとの報告。
74	2009/3/19	81017	第一三共	精製下垂体性腺刺激ホルモン	乳糖	ウシ	英国及びポルトガルを除く	添加物	有	無	無	BSE	ProMED-mail20081119-3648	2008年11月17日、カナダにおいて新たにBSE感染牛が1例確認された。これはカナダにおける15例目である。British Columbiaの農場。
												結核	ProMED-mail20081205-3826	米国インディアナ州南東部の牛の群においてウシ結核が1例確認され調査中である。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												結核	ProMED-mail20081207-3839	米国ミネソタ州のBeltrami Countyにおいて、ウシ結核が3頭で確認された。
												結核	ProMED-mail20081208-3856	90232に同じ
75	2009/3/19	81018	第一三共	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	抗FSHマウスモノクローナル抗体	マウス	イタリア	製造工程	無	無	無			
76	2009/3/23	81019	フジモト・ダイアグノスティックス	—	ワクシニアウイルス接種家兎炎症皮膚抽出液	日本白色種家兎皮膚抽出液	中国	有効成分	無	無	無			
77	2009/3/23	81020	味の素	バルナバリンナトリウム	バルナバリンナトリウム	健康なブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	ウイルス感染	OIE (December 23, 2009)	81012に同じ
												エボラ出血熱	promedmail(January 23, 2009)	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認され、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示した。同ウイルスのブタからヒトへの感染を示す初の報告。
												エボラ出血熱	WHO EPR Disease Outbreak News(February 3, 2009)	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認された後、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示し、今回さらに4例の抗体陽性例を認めた。
78	2009/3/24	81021	北里研究所	コレラワクチン	ウシ心臓抽出物	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
79	2009/3/24	81022	北里研究所	コレラワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	カザミノ酸	ウシ乳	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
80	2009/3/24	81023	北里研究所	コレラワクチン	ビーフエキストラクト	ウシ筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
81	2009/3/24	81024	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	スキムミルク	ウシ乳	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
82	2009/3/24	81025	北里研究所	コレラワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風トキソイド 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ペプトン	ウシ乳	中国、ポーランド、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
83	2009/3/24	81026	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシ乳	オーストラリア、ニュージーランド、米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
84	2009/3/24	81027	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	エリスロマイシンラクトビオン酸塩	ウシ乳	ニュージーランド、カナダ、米国、オランダ、ベルギー、ドイツ、ルクセンブルグ	製造工程	無	無	無			
85	2009/3/24	81028	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ウシ胎児血清、新生仔牛血清	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
86	2009/3/24	81029	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	乳糖水和物	ウシ乳	ニュージーランド、米国	添加物	無	無	無			
87	2009/3/24	81030	北里研究所	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン 沈降新型インフルエンザワクチン(H5N1株)	発育鶏卵	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
88	2009/3/24	81031	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	ニワトリ胚初代培養細胞	孵化鶏卵	日本、米国	製造工程	無	無	無			
89	2009/3/24	81032	北里研究所	日本脳炎ワクチン	マウス脳乳液	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
90	2009/3/24	81033	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ血清	ウマ血液	米国	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
91	2009/3/24	81034	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降破傷風トキソイド 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ウマ脱繊維素血液	ウマ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
92	2009/3/24	81035	北里研究所	乾燥弱毒生風しんワクチン	ウサギ腎初代培養細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
93	2009/3/25	81036	伊藤ライフサイエンス	バルナバリンナトリウム	バルナバリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
94	2009/3/25	81037	メルクセローノ	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸	中国	有効成分	無	無	無			
95	2009/3/26	81038	日本製薬	乾燥ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリン	ポリエチレングリコール処理人免疫グロブリンG	人血液	日本	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	スロヴェニアで、HBs抗原陰性で抗HBc抗体陽性、抗HBs抗体低力価陽性、HBV DNA陽性の濃厚赤血球と新鮮凍結血漿を輸血された59歳の患者が4ヶ月後に急性B型肝炎を発症した。また同じ供血血液由来のRCCの輸血を受けた71歳の患者も7ヶ月後にHBV感染を認めた。2例ともドナーと同じ配列を有するジェノタイプDが感染していた。潜在性B型肝炎ウイルス感染者の血液は抗HBs抗体が陽性にかかわらず、感染性を有した。
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	2004年9月20日に39歳日本人男性から献血された血液はALT高値のため不相当とされ、HEV陽性であった。当該ドナーの遡及調査の結果、9月6日にも献血を行い、HEV RNAを含有する血小板が輸血されていた。当該ドナーと親戚は8月14日にブタの焼肉を食べており、父親は9月14日に急性肝炎を発症し、E型劇症肝炎で死亡した。他に7名がHEV陽性であった。レシピエントは輸血22日目にALTが上昇し、HEVが検出された。
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	供血時には血清検査陰性であったが、その後HBV DNAが検出された供血者由来の血液成分を輸血された2名の免疫不全患者について調べた。受血者1はHBVワクチン接種を受け、抗HBsキャリアであったが、赤血球輸血後13か月で急性B型肝炎を発症するまで他のHBVマーカーは全て陰性であった。供血者とHBVシークエンスが一致したため、輸血関連感染と確認された。受血者2は血小板輸血を受けたが、感染していなかった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	血漿交換、コルチコステロイドおよびコリンエステラーゼ阻害剤による治療を受けていた重症筋無力症患者が、アルブミンを用いた血漿交換を行った2週後にバルボウイルスB19感染による赤芽球減少症と診断された。アルブミン由来感染かどうかを確定することはできなかったが、アルブミンなどの血液製剤によるB19感染を除外することはできない。
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	日本のブタから分離されたHEVジェノタイプ3または4の4株について熱処理およびフィルタールによる除去の程度を検討した。HEVはアルブミン溶液中で60°C5時間加熱後およびフィブリノゲン中で60°C72時間加熱後も感染力が検出されたが、PBS中で60°C5時間加熱後およびフィブリノゲン中で80°C24時間加熱後には検出限界以下に不活化された。一方、20nmナノフィルター使用により完全に除去された。
96	2009/3/26	81039	日本製薬	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	人アンチトロンビンⅢ	人血液	日本	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	スロヴェニアで、HBs抗原陰性で抗HBc抗体陽性、抗HBs抗体低力価陽性、HBV DNA陽性の濃厚赤血球と新鮮凍結血漿を輸血された59歳の患者が4ヶ月後に急性B型肝炎を発症した。また同じ供血血液由来のRCCの輸血を受けた71歳の患者も7ヶ月後にHBV感染を認めた。2例ともドナーと同じ配列を有するジェノタイプDが感染していた。潜在性B型肝炎ウイルス感染者の血液は抗HBs抗体が陽性にかかわらず、感染性を有した。
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
97	2009/3/26	81040	日本製薬	トロンビン	トロンビン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	81039に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ
98	2009/3/26	81041	日本製薬	人血清アルブミン(20%) 加熱人血漿たん白 人血清アルブミン(25%) 人血清アルブミン(5%)	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	B型肝炎	J Hepatol 2008; 48: 1022-1025	81039に同じ
												E型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1368-1375	81038に同じ
												B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 1602-1608	81038に同じ
												バルボウイルス	Lab Hematol 2007; 13: 34-38	81038に同じ
												E型肝炎	Vox Sanguinis 2008; 95: 94-100	81038に同じ
99	2009/3/26	81042	ジェンザイム・ジャパン	アガルシターゼ ベータ(遺伝子組換え)	アガルシターゼ ベータ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞	宿主細胞株は、Dr. L.A.Chasin(Columbia University)より入手したジヒド	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
100	2009/3/26	81043	ジェンザイム・ジャパン	アガルスダーゼ ベータ(遺伝子組換え)	ドナー子ウシ血清	ドナー子ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
101	2009/3/26	81044	光製薬	ダルテパリンナトリウム注射液	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	口蹄疫	OIE(November 13, 2008)	中国における口蹄疫:発生日 2008年11月6日、最初の確定日 2008年11月8日、報告日 2008年11月12日、原因 口蹄疫ウイルス アジア1型。2008年11月6日にGANSU省Tianshui地区Ganguで口蹄疫のアウトブレイクが発生した。疑い例はウシ238頭、ヒツジ3頭およびブタ56頭、確定例はウシ102頭、死亡例0頭であった。疑い例は全て処分された。
												ウイルス感染	ProMED-mail20090210.0598	中国における豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)の発生。中国北部Shanxi省Hongdong県でブタ1056頭死亡。同県周辺の屠殺場7箇所でも30頭の罹患ブタが確認された。
102	2009/3/27	81045	化学及血清療法研究所	フィブリノゲン加第ⅤⅢ因子	アプロチニン	ウシ肺臓	ウルグアイ、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
103	2009/3/27	81046	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	胚初代培養細胞	ニワトリ胚	日本、米国、メキシコ	製造工程	無	無	無			
104	2009/3/27	81047	化学及血清療法研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥組織培養不活化A型肝炎ワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥組織培養不活化狂犬病ワクチン	トリブシ	ブタ臓臓	カナダ、米国	製造工程	無	無	無			
105	2009/3/27	81048	バクスター	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	乾燥人血液凝固因子抗体迂回活性複合体	人血漿	米国	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
106	2009/3/27	81049	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固Ⅷ因子	乾燥濃縮人血液凝固Ⅷ因子	人血漿	米国	有効成分	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
107	2009/3/27	81050	バクスター	乾燥濃縮人血液凝固Ⅷ因子	人アルブミン	人血漿	米国	添加物	有	有	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
108	2009/3/27	81051	CSL ペーリン グ	フィブリノゲン加第ⅧⅢ因子	アプロチミン 液	ウシ肺	ウルグアイ、ニュー ジーランド	有効成分	無	無	無			
109	2009/3/27	81052	CSL ペーリン グ	フィブリノゲン加第ⅧⅢ因子	アンチトロン ビン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	製造工程	有	有	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2008; 48: 25-30	FDAはBPDR(生物学的製剤逸脱報告システ ム)により、2005年に2例、2006年に3例、2007 年に3例の輸血によるバベシア症感染報告を 受けていた。受血者は輸血後2.5~7週で症状 が進行し、2ヶ月以内に死亡した。
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
110	2009/3/27	81053	CSL ペーリン グ	フィブリノゲン加第ⅧⅢ因子	フィブリノゲ ン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	有効成分	有	無	無	異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28 日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2008; 48: 25-30	81052に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
111	2009/3/27	81054	CSL ペーリン グ	人血清アルブミン 人血液凝固ⅧⅢ因子 フィブリノゲン加第ⅧⅢ因子	人血清アル ブミン	ヒト血液	米国、ドイ ツ、オース トリア	有効成分 添加物	有	無	無	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1342-1347	81013に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2008; 48: 25-30	81052に同じ
112	2009/3/27	81055	CSL ペーリン グ	フィブリノゲン加第ⅤⅢ因子	トロンビン末	ヒト血液	米国、ドイツ、オーストリア	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	American Society of Hematology/ Press Releases 2008年8月28日	81013に同じ
												バベシア症	Clin Infect Dis 2008; 48: 25-30	81052に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPAweb February 17, 2009	90183に同じ
113	2009/3/30	81056	伊藤ライ フサイエ ンス	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリン ナトリウム	ブタ小腸粘 膜	中華人民 共和国	有効成分	無	無	無			
114	2009/3/30	81057	サノフィ パスツ ール第 一三共 ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	脱線ウマ血 液	ウマ血液	フランス	製造工程	無	無	無			
115	2009/3/30	81058	サノフィ パスツ ール第 一三共 ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	ウシ心臓浸 出液	ウシ心臓	米国	製造工程	無	無	無			
116	2009/3/30	81059	サノフィ パスツ ール第 一三共 ワクチ ン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	ウシ骨格筋 由来成分(ペ プトン)	ウシ骨格筋	オーストラ リア	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
117	2009/3/30	81060	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	ペプトシ	ブタ皮	米国及び カナダ	製造工程	有	無	無	ウイルス感染	OIE (December 23, 2008)	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで エボラレストンウイルスが確認された。同ウイ ルスのブタへの感染を示す初の報告。
118	2009/3/30	81061	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	カゼイン酸加 水分解物	ウシ乳	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
119	2009/3/30	81062	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	ヘミン	ウシ血液	米国	製造工程	無	無	無			
120	2009/3/30	81063	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	カゼインパン クレアチン消 化物	ウシ乳	米国、 ニュージ ーランド、 オーストラ リア、フラ ンス	製造工程	無	無	無			
121	2009/3/30	81064	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	肉エキス	ウシ肝臓及 び肺	フランス	製造工程	無	無	無			
122	2009/3/30	81065	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	トリプトンV	ウシ乳	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
123	2009/3/30	81066	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	カゼインペ プチドN3	ウシ乳	ニュージ ーランド	製造工程	無	無	無			
124	2009/3/30	81067	サノフィ パスツール第一 三共ワクチン	乾燥ヘモフィルスb型ワクチン (破傷風トキソイド結合体)	スキムミルク	ウシ乳	米国及び 英国を除く ヨーロッパ	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
125	2009/3/30	81068	日本赤十字社	人血清アルブミン	人血清アルブミン	人血液	日本	有効成分	有	無	無	ウエストナイルウイルス	ABC Newsletter No.38 2008年10月17日	2008年9月に、イタリアで何年かぶりにヒトのウエストナイルウイルス(WNV)脳炎が2例報告された。1例目はFerraraとBolognaの間に住む80歳代の女性、2例目はFerraraに住む60代後半の男性であった。また、ウマ6頭とトリ13羽でWNV感染が確認された。WNV髄膜脳炎の積極的サーベイランスプログラムが開始され、当該地域で供血者スクリーニング用NATが導入された。また、当該地域に1日以上滞在したことのある供血者を28日間供血延期する措置がとられた。
												HHV-8感染	Transfusion 2008; 48: Supplement 105A	米国の供血者のヘルペスウイルス8(HHV8)ゲノム陽性率について、高感度定量RT-PCR法(検出限界8コピー)より684名の検体を分析したがHHV8ゲノムは検出されず、健康な供血者におけるHHV8陽性率は非常に低かった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日	CJDサーベイランス委員会による調査では1999年4月から2008年2月までの9年間に日本国内で1069例がプリオン病と判定された。うち孤発性CJDが821例(76.8%)、遺伝性プリオン病が171例(16.0%)、硬膜移植後CJD74例(6.9%)、変異型CJD1例(0.1%)、分類不能2例(0.2%)であった。日本のプリオン病剖検率は欧米諸国より著明に低かった。孤発性CJDの病型は欧米に比べMM2型が多かったが、非典型例が多く剖検されている可能性が考えられた。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	J Neurol Neurosurg Psychiatry 2008; 79: 229-231	オーストリアの39歳男性が感覚異常などの神経症状で入院後、急速に悪化し、4ヶ月後に死亡した。組織学的検査で海綿状変化、神経細胞脱落及びグリオシスが、免疫組織化学的検査でびまん性シナプティックな異常プリオンの沈着が見られ、CJDと診断された。また患者のPRNPは129Met-Metであった。患者は22年前まで死体由来のヒト成長ホルモン(hGH)製剤治療を受けており、医原性リスクが認められるため、孤発性若年性CJDの可能性も否定できないが、WHO基準により確定医原性CJDと分類された。
												クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2008; 48: Supplement 33A	米国で、古典的CJDを発症した供血者計35名に由来する血液成分の受血者430名の遡及調査の結果、孤発性CJDが輸血で伝播する証拠は無く、リスクはvCJDと比較して有意に低かった。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e2878	野生型マウスおよびヒトPrPを発現しているトランスジェニックマウスに、輸血関連vCJD感染第1号症例由来の脳材料を接種し、輸血によるヒト-ヒト間の2次感染後のvCJD病原体の性質について調べた。その結果、潜伏期間、臨床症状、神経病理学的特徴およびPrP型について、vCJD(輸血)接種群はvCJD(BSE)接種群と類似していた。vCJD病原体は、ヒトにおける2次感染により、有意な変化が起こらないことが明らかとなった。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1406-1412	810051と同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Blood, Prepublished online 2008年7月22日	810051と同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター11	ウイルス除去膜濾過工程を含んでいる製剤(血液凝固第VIII因子製剤: プラノバ20N濾過、抗HBs人免疫グロブリン製剤: プラノバ35N濾過)について、263K株感染ハムスターより得たSUS処理PrPScを用いて、その除去効果を検証した。その結果、SUS処理PrPScは濾過膜の孔径よりも小さいにもかかわらず、プラノバ35Nやプラノバ20Nで除去された。PrPScが凝集したり、膜へ吸着したためと考えられる。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	2008年プリオン研究会 2008年8月29-30日 ポスター18	スクレイビー263K感染ハムスター脳乳剤を脳内接種したハムスターにおける血中PrPres経時の変化を追跡したところ、PK抵抗性3F4反応性蛋白バンドは、感染後4~6週で認められ、10週ではほぼ消失した。発症末期では血中PrPresと見られる蛋白バンドは認められなかった。PrPresをマーカーとした血液検査は感染後発症前~発症中期までに限定される可能性が示唆された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS ONE 2008; 3: e3017	810131と同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												HIV	Eurosurveillance 2008; 13(50): 19066	ヨーロッパにおいて報告された人口100万人当たりの新規HIV感染率は、2000年以降ほぼ2倍となった。2007年は、当該地域53カ国中49カ国から合計48,892例のHIV感染が報告され、エストニア、ウクライナ、ポルトガルとモルドバ共和国で感染率が最も高かった。
126	2009/3/30	81069	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚	日本	有効成分	無	無	無			
127	2009/3/30	81070	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ウシ乳	ポーランド、中国、オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
128	2009/3/30	81071	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	カゼイン性ペプトン	ブタ膀胱	日本、カナダ	製造工程	無	無	無			
129	2009/3/30	81072	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	漿尿膜	発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			
130	2009/3/30	81073	日本臓器製薬	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	ウサギ	日本	製造工程	無	無	無			
131	2009/3/30	81074	武田薬品工業	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウス脳	日本	製造工程	無	無	無			
132	2009/4/1	90001	日本ビーシージー製造	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタの小腸	中国	有効成分	有	無	無	エボラ出血	WHO/WER 2009; 84: 49-56	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。
												インフルエンザ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-2	2008年11月8日、スペイン北東部、家内養豚場勤務の50歳女性がインフルエンザ様症状を発症し、ブタインフルエンザAH1N1が検出された。近縁者、同僚等での症状は認められていない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												神経系障害	Feedstuff Breaking News (2009/3/3)	2007年に、米国の豚肉製造工場で脳摘出のために圧縮空気を使用していたミネソタ州、インディアナ州、ネブラスカ州の3つの工場の作業員において慢性的な炎症性の脱髄性多発性神経障害が発生している。すでに自主的にこの作業は中止されている。
133	2009/4/1	90002	日新製薬	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	中国	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	Eurosurveillance 2009; 14: 1-2	90001に同じ
												エボラ出血	WHO/WER 2009; 84: 49-56	90001に同じ
												神経系障害	Feedstuff Breaking News (2009/3/3)	90001に同じ
134	2009/4/1	90003	化学及血清療法研究所	乾燥人血液凝固第Ⅸ因子複合体 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅸ因子	血液凝固第Ⅸ因子	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080828.2697	80995に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	ユンガンウイルスは、マウスにおいて胎児死亡や奇形を起こすことが知られているが、疫学的データから、ヒトにおいても子宮内胎児死亡に関連していることが示唆された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	日本国内の前立腺がん患者30例の血清のうち2例からGagに対する特異的抗体反応が認められ、そのうち1例からはXMRV(Xenotropic MuLV-related virus)核酸を検出した。また、献血者120例中5例でもGagに対する特異的抗体反応が認められた。日本国内の前立腺がん患者集団中にもXMRV感染が存在することが示唆された。
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	ジンバブエ保健当局からのコレラアウトブレイクの報告。2008年8月26日から2009年1月31日までに61,304例の感染疑い、3,181例の死亡。また、ボツワナ、モザンビーク、ケニヤ、マラウイ、ナミビア、ナイジェリア、ギニアビサウ及びトーゴといった周辺国からも発生が報告されている。
135	2009/4/1	90004	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ジフテリアウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	ウマ免疫グロブリン	ウマ血液	日本	有効成分	無	無	無			
136	2009/4/1	90005	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	クックドミート	ウシ心臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
137	2009/4/1	90006	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素 乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	クックドミート	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
138	2009/4/1	90007	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ウシ胃	米国	製造工程	無	無	無			
139	2009/4/1	90008	化学及血清療法研究所	乾燥ガスエソウマ抗毒素 ガスエソウマ抗毒素	プロテオースペプトン	ブタ胃	米国	製造工程	無	無	無			
140	2009/4/1	90009	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌスウマ抗毒素	肝臓	ウマ肝臓	日本	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
141	2009/4/1	90010	化学及血清療法研究所	乾燥ボツリヌス毒素	ブイオン	ブタ胃	ニュージーランド、オーストラリア、米国	製造工程	無	無	無			
142	2009/4/1	90011	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
143	2009/4/1	90012	化学及血清療法研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	パンクレアチン	ブタ膵臓	カナダ、イタリア、米国	製造工程	無	無	無			
144	2009/4/1	90013	日医工	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
145	2009/4/1	90014	日医工	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ小腸粘膜	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
146	2009/4/2	90015	東菱薬品工業	バトロキソピン	バトロキソピン	蛇毒	ブラジル	有効成分	無	無	無			
147	2009/4/2	90016	東菱薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ皮膚	中華人民共和国	有効成分	無	無	無			
148	2009/4/3	90017	富士製薬工業	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	ヒト絨毛性性腺刺激ホルモン	妊婦の尿抽出物	中国	有効成分	有	無	無	細菌感染	ProMED-mail20081120.3661	CDC中国国立研究所の研究者らによる研究で、中国における初めてのヒト顆粒球アナプラズマ症(HGA)症例およびそれに続くHGAの初めてのヒト-ヒト感染が報告された。指標患者は発熱・出血の発症の12日前にダニに刺され、安徽省の病院に入院し、死亡した。死亡前12時間に患者と濃厚接触した28名中9名がAnaplasma phagocytophilumに感染した。9名全員が血液に接触し、7名が気道分泌物に接触していた。この研究はJAMA2008年11月19日号に掲載された。
												ウイルス感染	Bulletin of WHO 2008; 86: 912-913	2008年10月初旬に南アフリカでアレナウイルスによる感染のアウトブレイクが同定された。9月12日から10月24日までに計5例が報告され、5例中4例が死亡し、1例は入院中であり、リバビリンにより回復した。塩基配列分析より、新型の旧大陸アレナウイルスが原因であることが明らかとなった。現在のところ新たな疑い症例はない。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												鳥インフルエンザ	WHO 2009年1月19日	中国保健省はH5N1鳥インフルエンザのヒト感染例を3例報告した。1例目は山東省27歳女性で1月5日に発症し、17日に死亡。2例目は山西の2歳女児で1月7日発症し重篤である。3例目は湖南省16歳男性で1月8日に発症し重篤である。
												HIV	Retrovirology 2008; 5: 103	シエラレオネ共和国から米国への移民男性においてHIV-2の新たなグループ(HIV-2-NWK-08F)が分離された。シエラレオネのサル的一种で確認されているサル免疫不全ウイルスと系統学的に類似している。感染者はサル接触歴、刺青、針刺し、輸血歴もなくヒト-ヒト感染が疑われている。
149	2009/4/3	90018	富士製薬工業	トロンピン	トロンピン	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	有効成分	無	無	無			
150	2009/4/3	90019	富士製薬工業	トロンピン	トロンボプラスチン	ブタの肺	デンマーク	製造工程	有	無	無	エボラ出血	WHO (2009年2月3日)	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。
151	2009/4/3	90020	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 破傷風トキソイド	ハートエキス	ウシの心臓	ニュージーランド	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	埼玉県における2002年1月～2007年12月の腸管出血性大腸菌の患者・保菌者372例と非発症者477例を対象とした牛肉の喫食状況のリスクを調査したケースコントロール研究である。20～29歳ではレバ刺し、ハンバーグ、50～59歳ではレバ刺しに関して有意差があった。
152	2009/4/3	90021	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン ジフテリアトキソイド	カザミノ酸	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
153	2009/4/3	90022	デンカ生研	ワイル病秋やみ混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン コレラワクチン	ポリペプチン	ウシの乳	中国又はポーランド	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
154	2009/4/3	90023	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン ジフテリアトキソイド 破傷風トキソイド コレラワクチン	スキムミルク	ウシの乳	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
155	2009/4/3	90024	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	ラクトアルブミン水解物	ウシの乳	ニュージーランド又はオーストラリア	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
156	2009/4/3	90025	デンカ生研	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	製造中止	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ
157	2009/4/3	90026	デンカ生研	日本脳炎ワクチン	ウシ胎児血清	ウシ胎児の血液	アメリカ	製造工程	有	無	無	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第67回日本公衆衛生学会総会 13-019	90020に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
158	2009/4/3	90027	デンカ生研	インフルエンザHAワクチン インフルエンザワクチン	尿膜腔液	ニワトリの受精卵	日本	製造工程	有	無	無	サルモネラ	CDC/MMWR 2009; 58: 25-29	2007年6月、ミネソタ州においてSalmonella Montevideo(PFGE pattern 1)が初めて2例確認され、両者とも同じ孵化場のニワトリに暴露しており、その後さらに7例が確認されたため、全米で調査が行われ、65件が確認された。またS.Montevideo(PFGE pattern 2)についても、最初に2004年に確認された後、64件の分離が確認され、これは別の2箇所の孵化場からのニワトリ暴露に関連していた。
159	2009/4/3	90028	デンカ生研	沈降精製百日せきジフテリア破傷風ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド 沈降破傷風混合トキソイド 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン ジフテリア破傷風混合トキソイド 百日せきワクチン 破傷風トキソイド	ペプトン	ブタの胃	日本又はアメリカ	製造工程	有	無	無	日本脳炎	第40回日本小児感染症学会総会・学術集会 F-13	2007年度感染症流行予測調査事業より、国内のヒト及びブタの日本脳炎抗体保有状況の報告。調査された32都道府県のうち、HI価1:10以上のブタ抗体保有率が50%を超えた地域は、高知県(7月下旬までに)、中国・四国・九州地方(8月下旬までに)、富山県、山梨県、静岡県(9月までに)に広がり16県に及んだ。
												エボラ出血	OIE press release 23Dec2008	80963に同じ
												インフルエンザ	日本ウイルス学会第56回学術集会 2E05	タイで分離された豚インフルエンザウイルス12株の遺伝子について系統解析を行い、9つの遺伝型に区別された。
												鳥インフルエンザ	日本ウイルス学会第56回学術集会 3F03	インドネシアにおいて鳥インフルエンザH5N1の豚への感染状況が調査され、系統解析の結果、遺伝的に異なる3種類のH5N1ウイルスが感染しており、ヒト型レセプターを認識する変異を有するものも確認された。
												エボラ出血	WHO/WER 2009; 84: 49-56	90001に同じ
160	2009/4/3	90029	デンカ生研	百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン 百日せきワクチン	ヒツジ血液	ヒツジの血液	製造中止	製造工程	無	無	無			
161	2009/4/3	90030	デンカ生研	ワイル病秋やみ混合ワクチン	ウサギ血清	ウサギの血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
162	2009/4/3	90031	デンカ生研	日本脳炎ワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン	マウス脳	マウスの脳	日本	製造工程	有	無	無	レプトスピラ症	Jpn J Infect Dis 2008; 61: 465-468	ヒトでのレプトスピラ感染が発生した2006年夏の宮崎県北部における動物の保菌状況を調査した。患者の血清は、特に各々の患者が発生した地域周辺で捕獲された野ネズミから分離されるレプトスピラ菌株と一致し、野ネズミが人間のレプトスピラ感染の原因であることを示唆した。また、猟犬からも抗レプトスピラ抗体が検出された。ハンターや食肉加工業の労働者での潜在的危険を示している。
												E型肝炎	日本ウイルス学会第56回学術集会 2P021	HEV Genotype3型の感染が確認されている豚舎周辺のドブネズミの感染保有状況の調査。9/56匹のドブネズミからHEV-RNA(Genotype3)が検出され、11/56匹からHEV抗体が確認された。
												E型肝炎	日本ウイルス学会第56回学術集会 2P022	タイの養豚場における齧歯類のE肝ウイルスの検出。養豚場に生息するラットから、ブタから分離されたHEV-RNAと一致するHEV-RNAが分離された。ラットがE型肝炎ウイルスを蓄積する宿主となっている可能性がある。
163	2009/4/3	90032	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	SPFウズラ胚	SPF発育ウズラ卵	日本	製造工程	有	無	無	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20090228-0826	2009年2月、愛知県豊橋市において、1925年以来検出されていないH7トリインフルエンザウイルスのウズラへの感染が確認された。その後の調査で、このウイルスは国内では初のH7N6亜型であることが判明した。感染農場、周辺地域では家畜の移動制限、殺処分が実施され感染拡大防止措置が取られている。ヒトへの感染は認められていない。感染源は不明。
164	2009/4/3	90033	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン	SPFニワトリ胚	SPF発育鶏卵	日本	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
165	2009/4/3	90034	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	ウシ血清	ウシの血液	ニュージーランド、オーストラリア	製造工程	無	無	無			
166	2009/4/3	90035	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド 乾燥まむし抗毒素 乾燥ジフテリア抗毒素 乾燥破傷風抗毒素	ウマ血清	ウマの血液	米国	製造工程	無	無	無			
167	2009/4/3	90036	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	エリスロマイシンラクチオン酸塩	ウシの乳	オランダ、米国、カナダ、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
168	2009/4/3	90037	阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	カザミノ酸	ウシの乳	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
169	2009/4/3	90038	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥日本脳炎ワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 日本脳炎ワクチン 水痘抗原	コレステロール	ヒツジの毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
170	2009/4/3	90039	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生水痘抗原ワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 水痘抗原 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	トリブシン	ブタの隣臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	エボラ出血	Science 2009; 323: 451	フィリピン。2007～2008年に養豚場のブタの死亡率が上昇したことをうけ、政府の調査が実施され、ブタ繁殖・呼吸器障害症候群(PRRS)ウイルス強毒株およびEbola-Restonウイルスの感染が確認された。ブタからEbola-Restonウイルスの検出は初めてである。
171	2009/4/3	90040	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ニワトリ肉エキス	ニワトリの肉、骨	該当なし(製造中止)	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
172	2009/4/3	90041	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ブタ肉エキス	ブタの肉、脂肪	該当なし(製造中止)	製造工程	有	無	無	エボラ出血	Science 2009; 323: 451	90039に同じ
173	2009/4/3	90042	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	ベプトン	ウシの乳	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
174	2009/4/3	90043	阪大微生物病研究会	乾燥日本脳炎ワクチン 日本脳炎ワクチン	マウスの脳	マウス	日本	製造工程	無	無	無			
175	2009/4/3	90044	阪大微生物病研究会	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド ジフテリア破傷風混合トキソイド 成人用沈降ジフテリアトキソイド ジフテリアトキソイド	牛肉消化液	ウシの筋肉	オーストラリア	製造工程	無	無	無			
176	2009/4/3	90045	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン	人血清アルブミン	ヒトの血液	該当なし(製造中止品目)	添加物	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
177	2009/4/3	90046	阪大微生物病研究会	百日せきワクチン 沈降精製百日せきワクチン 沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン	脱繊維牛血液	ウシの血液	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
178	2009/4/3	90047	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン 乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生麻しんおたふくかぜ風しん混合ワクチン 乾燥弱毒生風しん混合ワクチン 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン	乳糖水和物	ウシの乳	オランダ、ドイツ、オーストラリア、ニュージーランド	添加物	無	無	無			
179	2009/4/3	90048	阪大微生物病研究会	乾燥弱毒生水痘ワクチン 水痘抗原	MRC-5	ヒト胎児肺二倍体細胞	1966年に樹立したマスタセルバンクに使用したヒトの細胞株	製造工程	無	無	無			
180	2009/4/3	90049	阪大微生物病研究会	乾燥痘そうワクチン 痘そうワクチン	ウシの皮膚	ウシの皮膚	該当なし(製造中止品目)	製造工程	無	無	無			
181	2009/4/6	90050	田辺三菱製薬株式会社	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	無	無	無			
182	2009/4/6	90051	大洋薬品工業	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	無	無	無			
183	2009/4/6	90052	大洋薬品工業	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液	ウサギ	中国	有効成分	無	無	無			
184	2009/4/6	90053	大洋薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタ	中国	有効成分	無	無	無			
185	2009/4/7	90054	あすか製薬	日局ヒト下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			
186	2009/4/7	90055	あすか製薬	精製下垂体性性腺刺激ホルモン	下垂体性性腺刺激ホルモン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
187	2009/4/9	90056	ニプロファーマ	ヘパリンナトリウム注射液 ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの小腸粘膜	中国、アメリカ、カナダ、オーストラリア	有効成分	有	無	無	エボラ出血	OIE press release (December 23, 2008)	2007～2008年フィリピンで養豚場でブタの死亡率が上昇し、政府が調査をした結果、2008年10月にブタでエボラレストンウイルス及びブタ繁殖・呼吸器障害症候群(PRRS)ウイルス強毒性株の感染が確認された。エボラレストンウイルスのブタへの感染を示す初の報告。
												エボラ出血	ProMED-mail20090123.0293	フィリピンマニラの農場で2008年10月にブタで始めてエボラレストンウイルスが確認され、2009年1月には当該農場の労働者少なくとも1名で抗体陽性を示した。同ウイルスのブタからヒトへの感染を示す初の報告。
												エボラ出血	WHO/EPR 2009年2月3日	2009年1月23日、フィリピンにおいてブタからの感染と考えられるエボラウイルス・レストン株抗体陽性者が確認され、1月30日、さらに4例の抗体陽性者が確認されている。現在まで抗体陽性者の健康状態は良好であり、過去12ヶ月以内に主だった症状を呈していない。
188	2009/4/9	90057	テルモ	—	ヘパリン	豚小腸粘膜	米国、中国	有効成分	有	無	無	ブドウ球菌感染	ProMED-mail20090126.0348	アイオワ大学の疫学研究者らは米国のブタにおいてメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)に関する調査を行った。アイオワ州とイリノイ州の2つの農場において併せてブタ299頭及び養豚場で働く20名の検査を行い、生産システムAの農場では70%のブタ及び64%のヒトがMRSAのST398株のキャリアであった。一方、生産システムBの農場ではMRSAは検出されなかった。
												エボラ出血	WHO/EPR 2009年2月3日	90056に同じ
												サルモネラ	ProMED-mail20090209.0582	フィリピン・サマル州において2008年12月以降ブタでサルモネラ感染が流行し、84頭が死亡、約772頭が罹患した。その他25頭が感染疑いでと殺された。2月9日現在、感染は制御されたと、同地域の農業省職員が述べた。
189	2009/4/10	90058	沢井製薬	ウリナスタチン	ウリナスタチン	ヒト尿	中国	有効成分	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
190	2009/4/10	90059	沢井製薬	トロンピン	トロンピン	ウシ血液	ニュージーランド、オーストラリア、アルゼンチン	有効成分	無	無	無			
191	2009/4/10	90060	沢井製薬	ダルテパリンナトリウム	ダルテパリンナトリウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
192	2009/4/13	90061	宇治製薬	コンドロイチン硫酸鉄コロイド	コンドロイチン硫酸ナトリウム	ウシの軟骨	米国	添加物	無	無	無			
193	2009/4/14	90062	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	コレステロール	ヒツジ毛	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Vet Res 2008; 4: 14	スクレイピー高感受性のプリオン蛋白質遺伝子型(VRQ/VRQ)保有の子羊に、VRQ/VRQを保有するスクレイピー感染雌羊の乳を与えたところ、子羊のリンパ組織から疾患関連プリオン蛋白質が検出された。また、スクレイピー感染雌羊の乳を与えた子羊を与えていない子羊と混合飼育したところ、与えていない子羊において疾患関連プリオン蛋白質が検出された。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000238	スクレイピー潜伏感染し、マレディレンチウイルス感染による乳房の異所性リンパ濾胞が認められた雌羊の乳管及び乳腺房から異常プリオン蛋白質が検出された。ただし、乳腺に病変のないスクレイピー潜伏感染雌羊の乳にもプリオン感染性が認められた。TSEが潜伏感染する反芻動物の乳が、直接又は飼料中の乳由来成分を通して動物間のTSE伝播に関与することが示された。
												ウイルス感染	Vet Microbiol 2009; 133: 184-189	ブタ及びヒツジの糞便検体のノロウイルススクリーニングをmultiplex real-timeRT-PCRで実施した。ブタでは2/23検体で遺伝子群Ⅱ、ヒツジでは8/33検体で遺伝子群Ⅲが陽性であった。臨床的異常は認められていない。ゲノム配列分析から、ヒツジで検出された株は新たなGⅢ遺伝子群であることが示唆された。
194	2009/4/14	90063	北里研究所	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降ジフテリア破傷風混合トキソイド	ヒツジ血清	ヒツジ血液	米国	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	BMC Vet Res 2008; 4: 14	90062)と同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000238	90062に同じ
												ウイルス感染	Vet Microbiol 2009; 133: 184-189	90062に同じ
195	2009/4/14	90064	北里研究所	乾燥弱毒生麻しんワクチン 乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生おたふくかぜワクチン	トリブシン	ブタ隣臓	米国、カナダ	製造工程	有	無	無	クロストリジウム感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1039-45	動物からヒトへのClostridium difficileの異種間伝播を調査するため、ヒトの疾患に関連するToxinotype V株、動物及びヒトに由来するToxinotype V株の遺伝的関連性、in vitroのこれらの株の毒素産生性を調べた。その結果、ヒトとブタから分離されたToxinotype V株間で高い類似性が認められた。全ての分離株で39bp tcdC欠損が見られ、大部分がバイナリートキシンを産生した。
												エボラ出血	OIE press release 23Dec2008	80963に同じ
												ウイルス感染	Vet Microbiol 2009; 133: 184-189	90062に同じ
196	2009/4/14	90065	武田薬品工業	沈降精製百日せきジフテリア破傷風混合ワクチン 沈降精製百日せきワクチン	ウシ血液	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
197	2009/4/14	90066	武田薬品工業	乾燥弱毒生風しんワクチン 乾燥弱毒生麻しん風しん混合ワクチン	ウサギ腎細胞	ウサギ腎臓	日本	製造工程	無	無	無			
198	2009/4/14	90067	日本化薬	乾燥BCG膀胱内用(コンノート株)	生きたカルメット・ゲラン菌(BCG)・コンノート株	牛型結核菌生菌	カナダ	有効成分	無	無	無			
199	2009/4/15	90068	化学及血清療法研究所	乾燥濃縮人アンチトロンビンⅢ	アンチトロンビンⅢ	ヒト血液	日本	有効成分	有	有	無	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080828.2697	80995に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20090129.0400	90003に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日	90003に同じ
												コレラ	CDC/Travelers' Health 2009年2月4日②	90003に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/News 2009年2月17日	vCJDと関連のない疾患で死亡し、生前にvCJD又は他の神経学的症状を示していなかった男性血友病患者の剖検時に、異常プリオンタンパクが確認された。この男性は、献血後にvCJDを発症したドナー血漿を含む原料から製造された第Ⅷ因子製剤を使用していた。
200	2009/4/15	90069	化学及血清療法研究所	人免疫グロブリン ヒスタミン加入免疫グロブリン製剤	免疫グロブリン	ヒト血液	日本	有効成分	有	無	無	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080828.2697	80995に同じ
												ウイルス感染	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 14124-14129	80995に同じ
												ウイルス感染	ProMED-mail20081028.3409	80995に同じ

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	CDC/MMWR 2008; 57: 1145-1148	809951に同じ
												ウイルス感染	ProMED- mail2009012 9.0400	900031に同じ
												レトロウイルス	CDC/Travele rs' Health 2009年2月4 日	900031に同じ
												コレラ	CDC/Travele rs' Health 2009年2月4 日②	900031に同じ
												異型クロイツ フェルト・ヤコブ 病	HPA/News 2009年2月17 日	900681に同じ
201	2009/4/15	90070	化学及 血清療 法研究 所	乾燥濃縮人活性化プロテインC 乾燥濃縮人血液凝固第Ⅷ因子	マウス由来 モノクローナ ル抗体	マウス脾臓	日本	製造工程	無	無	無			
202	2009/4/16	90071	ジェンザ イム・ ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブ リン	抗ヒト胸腺細 胞ウマ免疫 グロブリン	ウマ血漿	フランス	有効成分	無	無	無			
203	2009/4/16	90072	ジェンザ イム・ ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブ リン	胸腺細胞	ヒト胸腺	ベルギー、 スペイン、 フランス、 イタリア、リ トアニア、 ポーランド、 ノル ウェー、デ ンマーク、 スウェーデ ン	製造工程	無	無	無			
204	2009/4/16	90073	ジェンザ イム・ ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブ リン	赤血球スト ローマ	ヒト血液	アメリカ	製造工程	無	無	無			
205	2009/4/16	90074	ジェンザ イム・ ジャパン	抗ヒト胸腺細胞ウマ免疫グロブ リン	胎盤組織	ヒト胎盤	フランス	製造工程	無	無	無			

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
206	2009/4/16	90075	ジェンザイム・ジャパン	アルゲルコシダーゼ アルファ (遺伝子組換え)	アルゲルコシダーゼ アルファ(遺伝子組換え)	遺伝子組換えチャイニーズハムスター卵巣細胞	宿主細胞株は、Dr.Lawrence Chasin(Columbia University)より入手	有効成分	無	無	無			
207	2009/4/16	90076	ジェンザイム・ジャパン	アルゲルコシダーゼ アルファ (遺伝子組換え)	ウシ血清	ウシ血液	ニュージーランド	製造工程	無	無	無			
208	2009/4/16	90077	ジェンザイム・ジャパン	アルゲルコシダーゼ アルファ (遺伝子組換え)	トリプシン	ブタ膵臓	米国、カナダ	製造工程	無	無	無			
209	2009/4/17	90078	沢井製薬	ヘパリンカルシウム	ヘパリンカルシウム	ブタ腸粘膜	中国	有効成分	無	無	無			
210	2009/4/17	90079	日本ビーシージー製造	乾燥BCGワクチン 乾燥BCG膀胱内用(日本株)	ウシの胆汁	ウシの胆嚢	オーストラリア、ニュージーランド	製造工程	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Virology Vol.379 No.2 284-293, 2008	80973に同じ
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Emerging Infectious Diseases, Vol.14, No.12,1898-1901,2008	80973に同じ
211	2009/4/20	90080	扶桑薬品工業	ヘパリンナトリウム	ヘパリンナトリウム	ブタの腸粘膜	米国、カナダ、中国	有効成分	有	無	無	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1470-1472	米国で2005年12月にインフルエンザA型と診断された17歳少年の鼻洗浄検体から分離されたウイルスは、CDCで決定されたウイルスの全ゲノム配列から、ブタインフルエンザA(H1N1)トリプル再集合体ウイルス(A/Wisconsin/87/2005H1N1)と同定された。患者は発症の3日前にブタの屠殺を手伝っており、ブタの呼吸器分泌物が感染源として最も疑われた。
												ロタウイルス	J Med Virol 2008; 80: 1666-1674	1982年12月~1986年3月のブラジル・ベレン郊外でC群ロタウイルス(RVC)の流行に関する調査が実施された。生後~3歳まで追跡された小児30例の糞便検体から17検体でブタRVCが検出された。また、VP6遺伝子の配列分析から14株は完全に相同であり、同一のブタRVC株がベレンで流行していることが示唆された。

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												レンサ球菌感染	病原微生物検出情報 2008; 29: 257-258	日本において精肉加工業の68歳男性がブタ連鎖球菌性髄膜炎を発症した。敗血症、急性腎不全、DICを合併した。具体的な感染経路は確認されていない。
												レンサ球菌感染	J Infect 2008; 57: 158-161	オランダで3.5年間の観察コホート研究において696例の細菌性髄膜炎患者が同定され、うち4例がブタ連鎖球菌性髄膜炎であった。全4例でブタへの暴露が関係していた。3例が重度の難聴の後遺症を呈した。
												サルモネラ	Eurosurveillance 2008; 13: 19020	2008年5~6月、スイスでSalmonella Typhimurium患者報告数が増加し、72例の患者を対象に調査が行われた。FGEタイピングの結果から、複数のアウトブレイク株が同定された。そのうちの1つの株"株2"が43例を占めていたが、食品からの分離株で一致するものはなかった。11例から分離された"株1"及び6例から分離された"株3"は食肉製造業者の豚肉検体から一致する株が分離された。
												ブドウ球菌感染	Ugeskr Laeger 2008; 170: 3436-3437	デンマークにおいて職業上のブタ接触者2例で、MRSA感染が確認された。ST398及びt034という特徴も併せ、ブタが感染源であると判断された。
												インフルエンザ	ProMED-mail20081125.3715	CDCはインフルエンザ活動性の最新情報で、ブタに数回接触後にブタインフルエンザA/H1N1ウイルスに感染したヒトについて報告した。CDCによると毎年約1例のブタインフルエンザ陽性ヒト症例がある。この患者は10月中旬に病気になったと、テキサス州保健サービスは報告しているが、詳細は不明である。患者の家族や接触者では発症しなかった。
												レンサ球菌感染	Emerg Med J 2008; 25: 607-608	イギリスで35歳の精肉店勤務の男性がブタ連鎖球菌性髄膜炎を発症した。業務上負った手の切り傷からの感染と思われる。
												レンサ球菌感染	Epidemiol Infect 2008; 136: 1691-1697	2003年1月1日~2005年7月31日の期間に香港の公立病院に入院し、ブタ連鎖球菌感染症と診断された患者は21例であり、半数が65歳以上、大半が夏に発症であった。5例がブタや豚肉への職業的接触があり、4例は発症前に生の豚肉を調理していた。